



**第14回
京都学生祭典
事業企画書**



第14回京都学生祭典実行委員会



*14th
Kyoto Intercollegiate
Festa*



Copyright©2016 Kyoto
Intercollegiate Festa All Rights
Reserved

Contents

P . 3	京都学生祭典とは
P . 4	運営体制
P . 5	活動趣旨
P . 6	活動予算
P . 7	第14回テーマ・活動目標
P . 8	地域活性プロジェクト
P . 9	京都学生祭典本祭
P . 10	本祭MAP
P . 11	目玉コンテンツ
P . 13	本祭関係者数
P . 14	年間交流活動
P . 15	KYO-SENSE 国際化
P . 16	東北企画
P . 17	学生の成長の場として
P . 18	顕彰と来場者の感想



What's 京都学生祭典



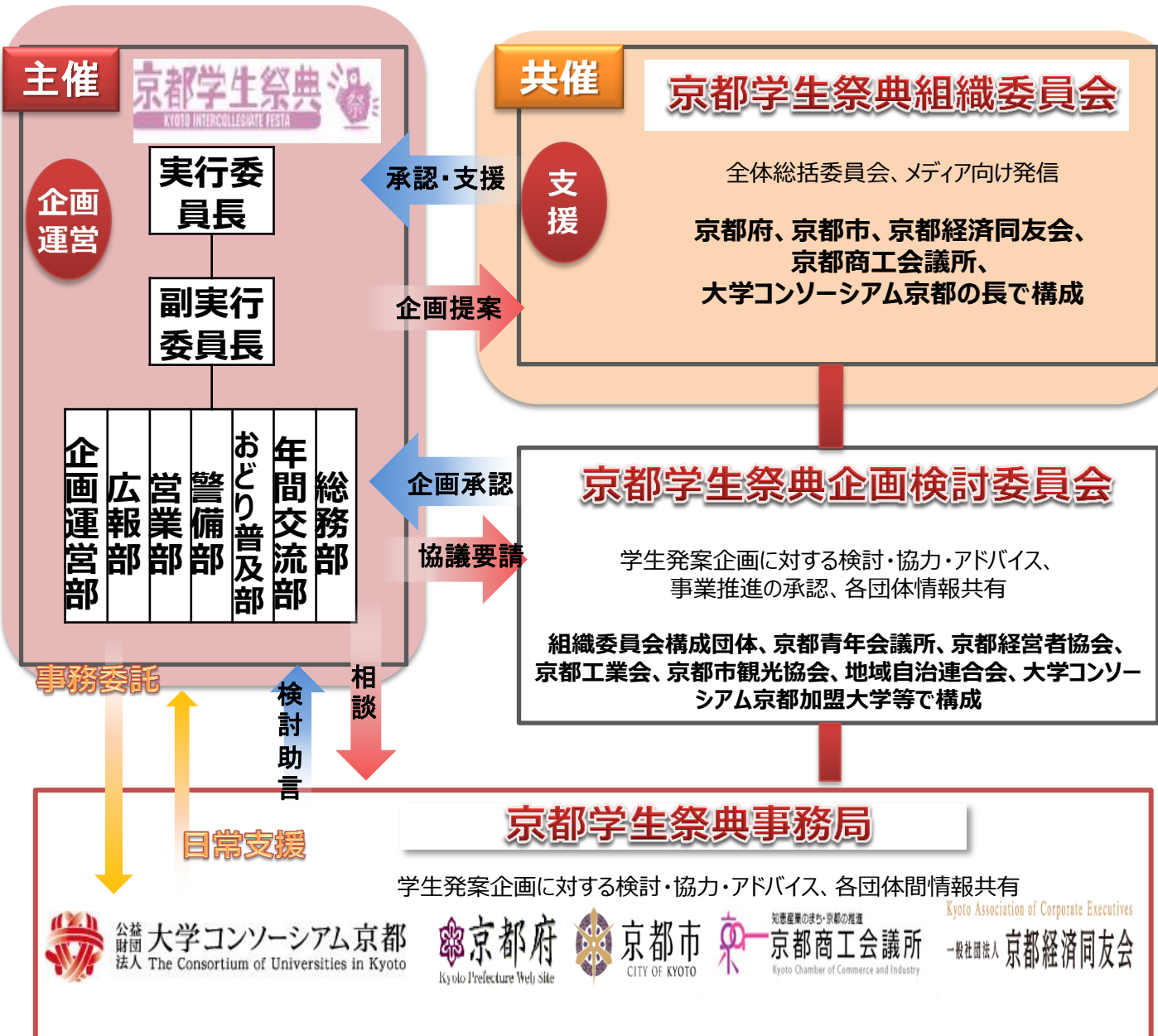
京都学生祭典は、学生の力で京都を盛り上げようと2003年から毎年10月、平安神宮前・岡崎プロムナード一帯のステージで繰り広げられる一大イベントです。今年で14回を迎える学生祭典は、企業、大学、行政、地域、そして学生が手を取りあい、京都の新たな伝統を担う祭りへと進化しつつあります。

京都学生祭典のスタートを告げる「opening」、音楽を目指す若者の登竜門的存在である学生音楽コンテスト「K S M A」、祭典の目玉企画である「京炎 そでふれ！ 全国おどりコンテスト」、数多くのブースがにぎやかな祭の空間を演出する「縁日」、祭典の魂を乗せて担ぐ「京炎みこし」、祭典の1日を締めくくるハイライトステージ「Grand Finale」などの企画をメインに毎年さまざまな催しが10万人以上の観客を魅了します。



運営体制

学生で組織する京都学生祭典実行委員会が中心となって企画・運営し、京都府や京都市、経済団体、大学が「オール京都」体制でバックアップしていることに特徴があります。



活動予算

分担金収入	31,300,000円		
内訳	京都府	5,500,000円	
	京都市	5,500,000円	
	京都経済同友会	300,000円	
	コンソーシアム加盟大学	17,387,000円	
	大学コンソーシアム京都	2,613,000円	
協賛金収入	24,040,000円		
内訳	特別協賛	8,500,000円	
	協賛	13,010,000円	
	広告協賛	2,430,000円	
その他	5,526,050円		
内訳	個人サポーター金収入	624,000円	
	参加費収入	3,854,252円	
	事業費収入	67,000円	
	実行委員会費収入	343,500円	
	赤タンクトップおどり手負担	417,000円	
	雑収入(補助金含む)	220,298円	
前年度繰越金	2,929,734円		
	収入合計		63,695,784円
		(当期収入	60,866,050円)

(13回 決算)

昨年度は100社以上の企業から
ご協力をいただきました！！

活動趣旨

京都を活気づけ、感動・笑顔を創出する

私たちが作り出す、あの熱気に包まれた空間で何かを感じてほしい。来場者に世代は関係なく、全員が出会い交わる中で何か心温まる気持ちを抱いて同じ時を過ごしてほしい。感動・喜び・笑顔・ときめきを、京都学生祭典から創造します。



京都の一員として、地域社会との繋がりを尊重する

私たちの活動は地域社会（企業・行政・大学・地域）の理解と協力があって、初めて行うことができます。そのような信頼関係は、一日だけで築くことはできません。だからこそ、地域社会との日々の交流を大切にしたい。その積み重ねの先に、京都の地で末永く続く祭りとして定着する道があると考えています。



京都で学び、地域社会と共に魅力を広く発信する

京都学生祭典を実現するには、主体となって活動する学生が地域社会との様々な交渉を重ねていく必要があります。幾度にもおよぶ困難を乗り越え、様々な経験や出会いの中で学びや自己実現の機会に恵まれます。その中で学生が生み出す魅力、京都の魅力を地域社会と共に広く発信していきます。



テーマ

「学生による京都四大祭りへの挑戦」

「学生の力を遺憾なく発揮」出来るような場・機会を京都中の人々を巻き込むことで創りだし、これまで以上に多様なジャンルの学生が、「主体的に参加する祭り」を実現することで、京都の祭り文化に「学生らしさ」を加え、京都三大祭りに肩を並べた「京都四大祭り」になることを目指し、挑戦してまいります。

活動目標

連携先 数増加

今年度から実施される地域活性プロジェクトを軸に、学生の力に期待してくださっているもっと多くの産学公地域の方々と共に京都を盛り上げていくことを目標とします。その中で、パートナーと密に意見を交換し、各学校の学祭とは本質的に異なる、産学公地域のALL京都で一緒に作りあげる「京都学生祭典らしさ」を全面に出していきます。

学生の 輝く場の 創出

各大学の部活動や芸術系大学で、全国や世界の大会などを舞台に活躍している学生、サークル活動等でおどりや音楽等に本気で取り組んでいる学生、京都の大学に通う留学生、また大学生にとどまらず、小中高校生にもスポットライトをあて、祭典の舞台に繋いでいくことで、祭典を通して京都中の学生が成長できるような舞台を作り上げ、時代とともに移り変わっていく「学生たちが輝ける場所」を創造し、学生の溢れるパワーを京都に還元していきます。

京都四大祭りへ

学生が、京都を盛り上げます！！！！

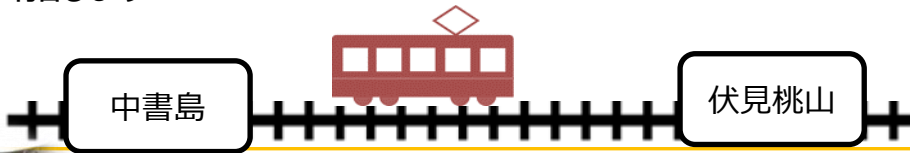
京都で頑張る学生と手を取り合って協同して京都を盛り上げたいと思っているパートナーを募集し、地域活性プロジェクトと称して企画を実施します。そしてその勢いのまま本祭へと向かいます。学生らしさを発揮しつつ、より地域に根差した、京都の皆様に愛される祭りになることを目指します。

Part1.「京都学生祭典in伏見」 5月21日（土）

連携先：



京炎 そでふれ！をはじめ、アカペラやバンド活動をする大学生が輝けるステージを設置します。そして、みこしを伏見地域の方々と担ぐことで、学生と地域みなさんで伏見地域を盛り上げます。伏見のお酒や食を使った縁日、京阪のミニ列車、大手筋商店街の夜市で使用される遊具をお借りした子ども向けの企画、2会場を繋ぐツアーで一体感を出すことで、伏見地域の活性を目指します！



Part2.「京都学生祭典in出町柳」 7月9日（土）

連携先：出町商店街振興組合、



同志社・京都大学の学生を中心に鴨川デルタでステージパフォーマンス、河川敷で縁日、七夕にちなんだアート作品や下鴨神社を使用してのおどり・音楽披露で出町一帯を盛り上げます。また、京阪電車を利用した貸し切り列車でたくさんの人を出町に呼び込み、夜に出町柳形商店街で行われる七夕まつりとともに、出町地域の活性を目指します！



京都学生祭典本祭

本祭企画

◎ 日程 : **2016年10月9日 (日)**

◎ 会場 : 平安神宮前、岡崎プロムナード一帯
岡崎公園周辺道路 (神宮道・二条通 ※交通規制予定)
岡崎グラウンド、岡崎グラウンド園路、岡崎都市公園

◎ テーマ : 「あなたに贈る、学生が本気で輝く晴れ舞台」

「学生らしさ」を様々な形で遺憾なく発揮できる場所にする事で、学生の文化を京都の魅力として発信することで、「京都三大祭り」に肩を並べる「京都四大祭り」になることを目指します。

また本祭で大きな輝きを発揮した学生には将来の道が開けるようなバックアップをすることで、ジャンルごとの幅も広げ、拡大させ、祭典独自の学生文化を創りあげていくことで、四大祭りにふさわしいと思われるような本祭を行います。



本祭MAP



京炎 そでふれ！



第3回京都学生祭典から生まれたオリジナル創作ダンス「京炎 そでふれ！」は京都らしい衣装と京都らしい振り付けで人々を魅了します！！
おどり手数は20大学、1000人以上を超えています！！



KSMA

KSMAとはKyoto Student Music Awardの略で音楽に真剣に取り組む学生達が熱い戦いを繰り広げます！！



京炎みこし



第5回京都学生祭典から京都学生祭典のシンボルとして生まれた京炎みこし。
このみこしには神様ではなく、京都を盛り上げたいという学生の熱い思いがのっています！！



NEW

KSFA



KSFAとはKyoto Student Fashion Awardの略で、服飾やメイクを学ぶ学生によってコーディネートされた学生モデルたちが華やかにランウェイを彩ります！



本祭関係者数

来場者数

140,000人以上～

実行委員数

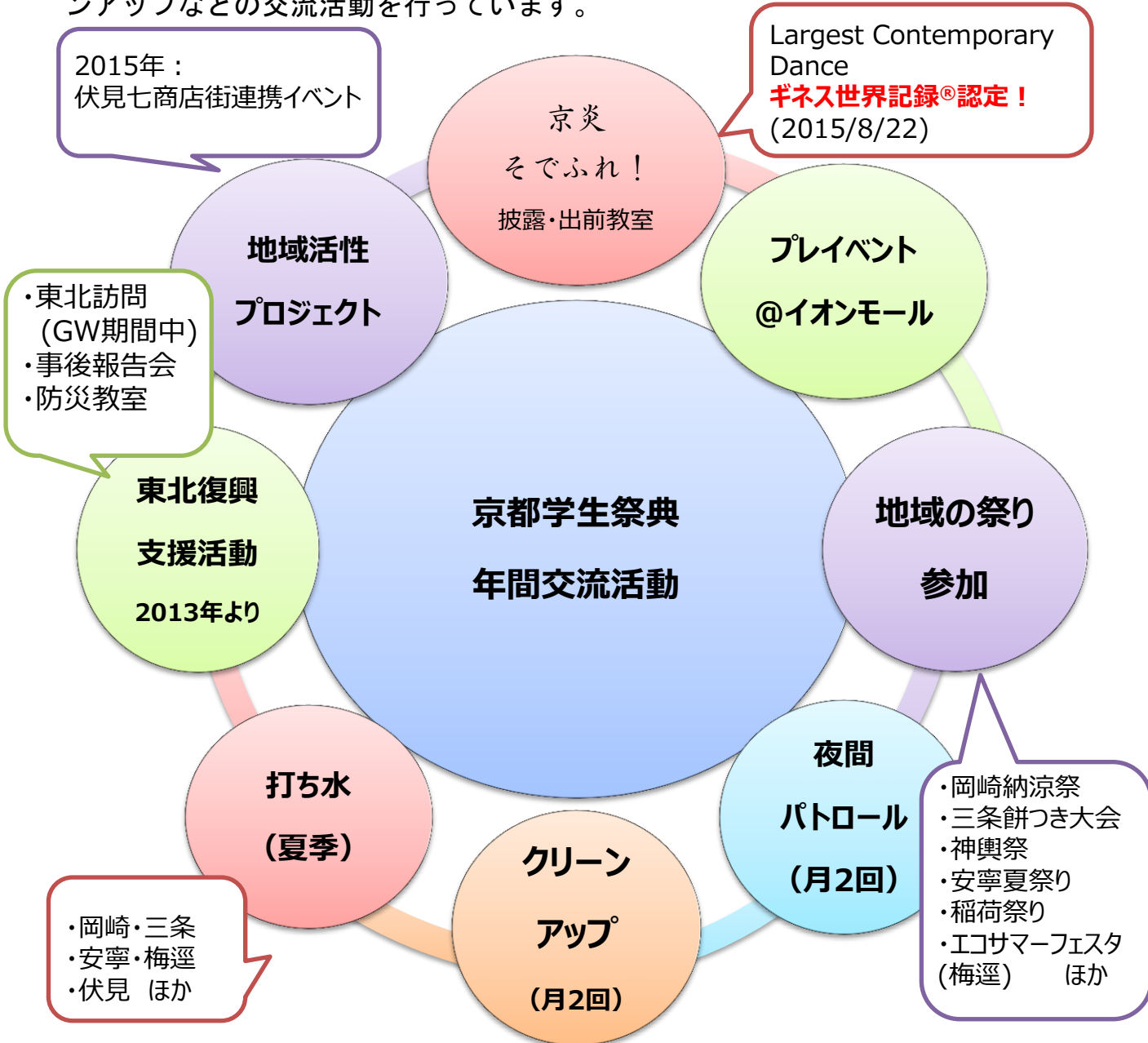
500人以上～

学生出演者数

1,500人以上～

『今日もどこかで 京都学生祭典は年間交流活動を行っています！』

京都学生祭典は『本祭』のみならず年間を通した活動に力を入れています。
地域交流の一環として、地域のお祭に参加したり、夜間パトロールやクリーンアップなどの交流活動を行っています。



京都学生祭典 エコプロジェクト

『KYO-SENSE』

京都に通ずる伝統文化に学びつつ、身近な生活から環境を見直し新しいライフスタイルを提案する京都学生祭典発の取り組みである「KYO-SENSE」プロジェクトを、今年も継続して取り組んでいきます。

京都で学ぶ学生の感性を活かしつつ、年間をととしてエコ活動を発信していきます。

『KYO』には様々な意味が含まれており、『京都』の伝統を継承し、『今日』の新しい技術に学び、産・学・公・地域が『協力』し、知恵と感性を出し合い環境問題に取り組むことを主眼としています。

「KYO-SENSE」プロジェクトの活動が高く評価され、京都市よりエコイベントとして認定して頂いています。



『国際化』

第14回京都学生祭典では、昨年度より始まった国際化への取り組みを継続して行っていきます。今年度は京都や日本の文化の魅力を伝え、留学生との交流を図ると共に、留学生とのイベントを実施することによって、京都学生祭典の魅力を知ってもらい、そこから京都学生祭典と留学生の交流の場を増やし、より深い関係を構築し本祭につなげることによって、留学生に知ってもらうだけでなく、共に作り上げる京都学生祭典を目指していきます。



学生から京都での防災意識の発信

第14回京都学生祭典での東北訪問は、京都の学生の元気や笑顔を直接現地の方々に届けにいき、京都の学生との継続的な心の交流を図ります。また事前活動として、実行委おどり手全体を対象とした勉強会を行って震災について考えてもらう機会を作り、は実行委員・おどり手全体や地域の方々に向け報告できる機会を公民館やおどり披露前教室にて実施することで、より多くの京都の方々に東日本大震災のことを思いもらうきっかけにしてもらいます。

事業名：東北企画

①東北訪問

事業日程：2016年5月2日～5日

概要：説明会を通して東日本大震災の社会的風化を防ぎます。

東北訪問で被災した方々に元気と感動を届けます。

生の被災地や被災者と触れあう中で、学生の成長の場とします。



②活動報告会（予定）

事業日程：5月21日、7月9日、10月9日

概要：地域活性プロジェクトや本祭において報告ブースを設置します。

そして、京都地域の皆さんを対象に活動報告と東北の現状報告を行います。

日頃の防災への備えについて考えるきっかけとなるような報告会を目指します。

また、熊本地震への募金箱も設置させていただきます。



◎過去のチャリティー活動◎

第9回京都学生祭典から始まった、東日本大震災支援チャリティー企画。

毎年、京都と東北をつなぐ活動を行っています。

実行委員会内で募金活動を行い、学生の想いを発信する企画を行うことから始まり、実際に現地に赴き、京炎 そでふれ！のおどり披露やボランティア活動もおこないました。

第13回京都学生祭典では、東北地域の仮設住宅などで京炎 そでふれ！のおどり披露や交流企画を行ったほか、被災地の見学、福島大学災害ボランティアセンターの方々との勉強会を実施しました。さらに、初の試みとなる事後報告会を実施し、東北で学んだことを京都から発信することで風化を防ぎ、東日本大震災について学生や一般参加者が話し合うことで学びを一層深めていくことができました。

◎ 研修会

京都学生祭典では日々の活動を行う上で必要となる様々なスキルを学ぶ場を設けています。ビジネスマナーや会議の進め方など外部講師の方だけでなく、実行委員が講師をする研修も行います。より、学生同士での意識の向上を目指します。



◎ 振り返り会

外部講師の方を招き、目標の立て方、具体的な行動を行うときのポイントなどを教えていただきます。本祭に向けての準備での大切なことを学ぶだけでなく、具体的な改善策を考えるきっかけになっています。



◎ 成果報告会 (10月下旬予定)

日頃の活動にご支援とご協力をしていただいた方々に感謝の気持ちを伝え、学生との交流する場を設けます。また、今年度、学生が日々の活動を通して学んだことを報告させていただきます。



顕彰と来場者の感想

多岐にわたる高評価をいただいています

《 顕 彰 》

- 2007年 第59回教育功労者表彰
2008年 京都創造者賞
自治110周年記念表彰
地域づくり総務大臣表彰
2009年 京の仲良し三世代表彰
2011年 社会貢献青少年 内閣府特命担当大臣表彰
2015年 未来の京都まちづくり推進表彰
京都市観光協会 観光功労者表彰
京炎 そでふれ！ギネス世界記録®認定
(最大人数でおどるコンテンポラリーダンス部門)



《 来場者の感想 》

※来場者アンケートのコメントを一部抜粋

- ・学生の活発な姿に元気をもらった
- ・盛大で賑やかな部分がいい
- ・子どもが楽しそうでよかった
- ・他の祭りより観客との距離が近い

さらに愛される京都学生祭典へ、これからも挑戦し続けます。